

## 背臥位二重造影正面位における、癌発見「きっかけ所見」の検討

船員保険北海道健康管理センター 澤田千恵

**目的：** 「背臥位二重造影正面位」は、基準撮影法において1枚目の撮影像である。まだ蠕動運動が始まっていない場合が多く、他の撮影像と比べ素直な胃型で撮影することができる。

もし1枚目の撮影において、その画像を観察し所見をチェックすることができれば、「どの体位で病変を描出できるのか」「どのような追加撮影を行う必要があるのか」など、2枚目以降の撮影計画を立てることができ、それ以降の撮影に有効であると考えられる。

今回、過去の癌症例を振り返り、「背臥位二重造影正面位」において「癌発見の、きっかけとなりうる所見」と「その描出率」について検討し、「背臥位二重造影正面位」における、所見チェックの有効性について考察した。



**方法：** 基準撮影法で撮影された過去の癌症例73症例のうち、背臥位二重造影正面位において、「癌発見のきっかけとなりうる所見」が認められるかどうか、経験10年以上の胃がん検診専門技師4名でチェックし、描出率と所見を検討した。

今回用いた、癌発見「きっかけ所見」は以下の通りである。

- ① 胃の辺縁不整像
- ② 粘膜面の線状陰影（集中・非集中）
- ③ 粘膜面のBaたまり
- ④ 粘膜面のBaはじき
- ⑤ 襲の変化
- ⑥ 領域を持った付着模様の変化
- ⑦ その他

**結果：** 描出された「きっかけ所見」症例画像と、所見割合、描出率を示す。

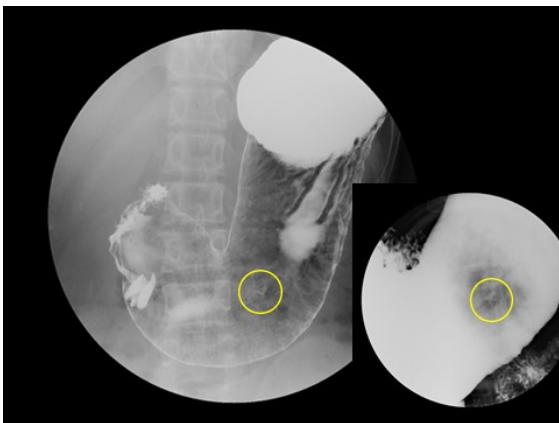
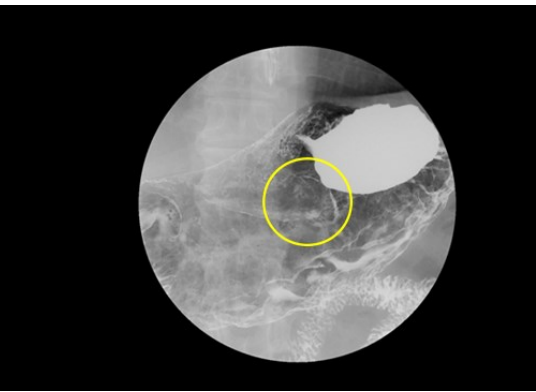
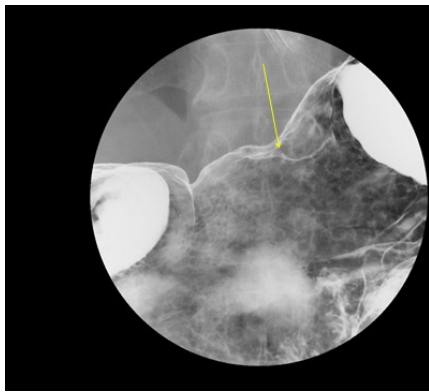
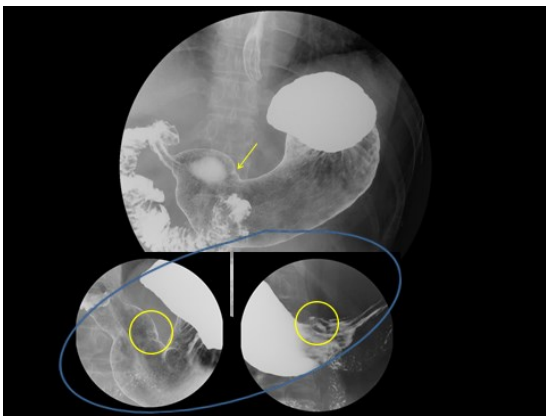
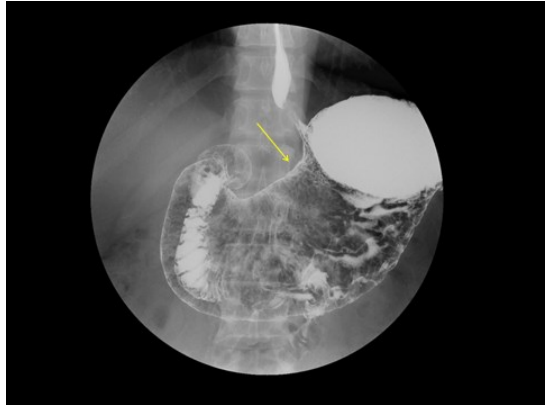
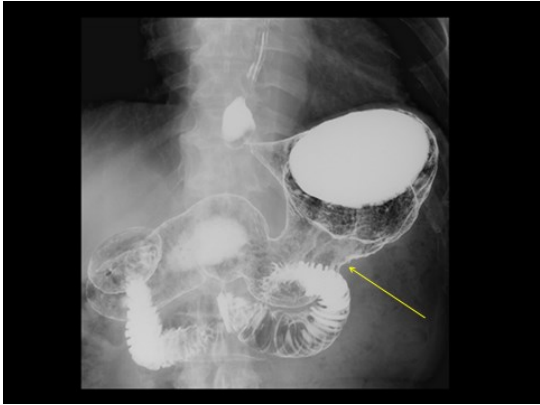


fig.1 辺縁不整  
(進行がん)

fig.2 辺縁不整  
(mpがん)

fig.3 辺縁不整  
(早期がん)

fig.4 線状陰影  
(集中)

fig.5 線状陰影  
(非集中・早期がん)

fig.6 線状陰影  
(非集中・進行がん)

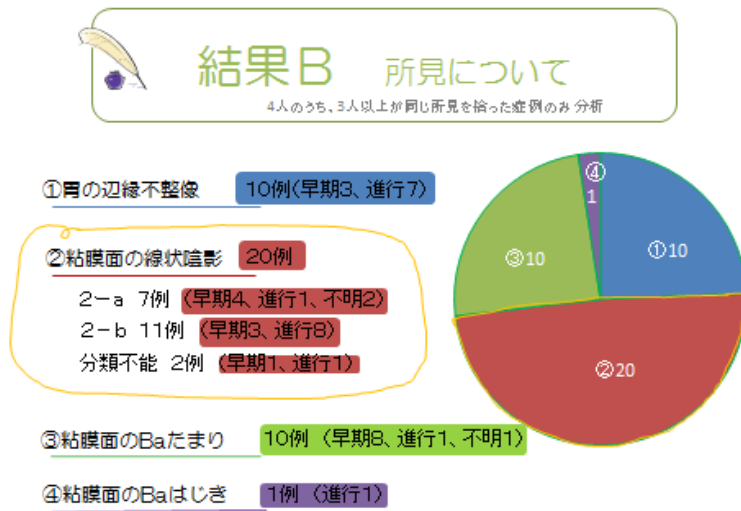
fig.7 粘膜面Baたまり  
(早期がん)



fig. 8 粘膜面 Ba たまり (IIc like ad)



fig. 9 粘膜面 Ba はじき



### ①「胃の辺縁不整像」症例

進行がん (ss、se) 症例は、胃辺縁に陰影欠損や壁の硬化が認められていた。(fig. 1)

進行がん (mp) 症例は、病変が真小彎にあったため描出されたが、辺縁は ss、se 症例より微細な変化であった。(fig. 2)

早期がん症例は、辺縁の変化は微細であり、たまたま病変が辺縁にあったため描出されていた。(fig. 3)

### ②「粘膜面の線状陰影 (2-a 集中、2-b 非集中)」症例

集中像症例では、進行がん・早期がんが入り混じっており、特徴は認められなかった。(fig. 4)

非集中像・早期がん症例はすべて「隆起性の分化型癌」で、「隆起のへり」が線状

陰影として描出されていた。(fig. 5)

非集中像・進行がん症例は「隆起性病変、隆起のへり」または「陥凹性病変、周堤のへり」が線状陰影として描出されていた。(fig. 6)

### ③「粘膜面のBaたまり」症例

早期がん症例は、淡いバリウム斑が描出されていた。(fig. 7)

進行がん症例では、小ニッシェが描出されていた。(fig. 8) 早期類似型進行がんであった。

### ④「粘膜面のBaはじき」症例

はっきりした隆起の進行がんは、1例だけであった。(fig. 9)

早期がんを見つけるカギになる「淡いはじき所見」は静止画ではチェックするのが難しかった。

### ⑤「襞の変化」症例 (fig. 10 例)

線状陰影・集中像と意見が分かれ、「襞の変化」としたものは無かった。

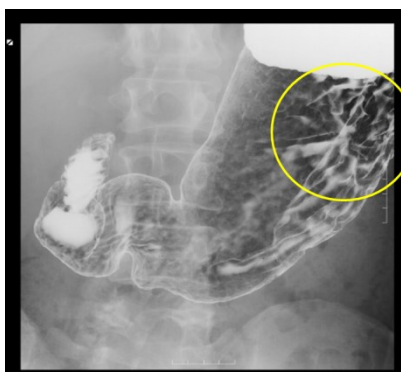


fig. 10 例

### ⑥「領域を持った付着模様の変化」症例 (fig. 11 例)

「領域を持った付着模様の変化」に分類したのものも無かった。「背臥位正面位」は1枚目の撮影であるため、今回の検討では、造影効果が足りず他の所見が有意であり、



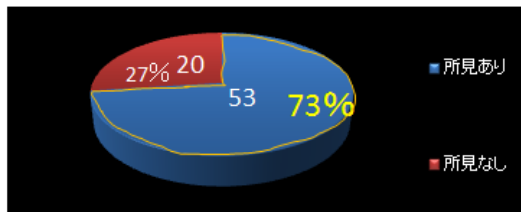
分類されなかったと考える。

fig. 11 例

## 結果A 「きっかけ所見」描出率

4人のうち、2人以上が「きっかけ所見」描出したもの

背臥位二重造影 正面位における  
「きっかけ所見描出率」73%



SEMPOS 北海道



**考察：**背臥位二重造影正面位における「きっかけ所見描出率」は73%であった。

背臥位二重造影正面位での所見チェックは有効であると考ええる。

しかし、癌を発見するためには、バリウムを動かして「Baはじき像」がないか観察し、また造影効果の上った撮画像でも確認する必要があると考える。